

TOPICS

まどかぴあ館長に林田スマさん就任



林田スマさん（大野城まどかぴあ男女平等推進センター所長）が4月1日、大野城まどかぴあの館長に就任しました。

林田スマさんは、大野城市の文化の拠点としての役割を大切にしながら市民の皆さんの「ワクワク発信空間」をつくりたいと考えています。「まどかぴあが人と文化の交差点、感動の輪をつなぐ場でありたいと願いながら仕事をしていきたい。」と抱負を述べました。

地域の力で外出支援



4月3日（金）、南コミュニティセンターで高齢者移動支援車「ふれあい号」の出発式が行われました。

高齢者の皆さんの外出支援を目的にコミュニティ運営委員会が30人ほどの運転ボランティアの協力によって運行します。

利用できるのは、南地区に住む65歳以上の人で、地域を2コースに分けて各コースを週3日（1日2往復）運行することになります。

試乗した人の一人は、「週2回出かけることにしている」と喜びを語っていました。

楽しんで“ボランティア”20年



3月28日（土）まどかぴあにおいて、ボランティア連絡協議会20周年記念フェスティバルが行われました。ボランティアセンターを拠点に活動する10団体の会員とハンディを持つ仲間たち約250人が参加し、ファッションショーや手話、朗読、拡大写本、点訳、コサージュ作り、食事サービスのお弁当に添える絵の塗り絵などのボランティア体験コーナーを開き、活動の紹介がありました。

（登録団体）手話ボランティア「手話の会」、点字サークル「あゆみの会」、朗読の会「文鳥」、交流活動「スニーカー」、高校生ボランティア「SUN」、介護ボランティア「ききょう」、おもちゃの図書館「あいあい」、拡大写本「虹の会」、車椅子ダンス「アミーゴス」、運転ボランティア「むつわ」。

活動内容はおおのじょうボランティアセンターホームページを見てください。

今の部屋と同じ家賃で、駅にも近くおしゃやかな新築の賃貸物件を見つけ、そろそろ引っ越すのいいかなと思っていたところ、やはり、そんないい物件はすぐにほかの人が契約してしまいました。引っ越すとなると、解約や住所変更など、いろいろと手続きも面倒だし、「ま、いいか」とも思いました。

賃貸住宅からの引っ越しに必要な手続きの一つが、敷金の精算。今回は、「ホットな消費者ニュース（16ページ）」で、敷金返還トラブルの記事を掲載しました。数年前、以前住んでいたところから引っ越したとき、不足分の支払いこそなかったものの、戻ってきた敷金はごくわずか。後から、法律関係の仕事をしている友人に話すと、「自然損耗なら、少額訴訟を起せば、返って来たのよ」とのこと。

当時は「敷金は返ってこなくて当然」と勝手に思いこんでいましたが、こういう知識があれば、払わなくて済んだものもあつたかもしれません。賢い消費者にならなければ、と気づかされた一件でした。

大文字

